

自然に囲まれた野球場

## 円山球場

北海道を代表する野球場として、数々の熱戦が繰り広げられてきた円山球場を紹介します。

市内の中心部に程近い円山の自然の中で、円山球場は昭和十年七月十四日に開場しました。

市民のスポーツの拠点・札幌総合運動場として、周囲には陸上競技場やテニスコートも造られる中で、円山球場は、当時アマチュア野球の舞台となっていた中島球場に対し、主にプロ野球用の球場として位置付けられました。

開場から約二カ月後には、早速巨人（当時の名称は大日本東京野球倶楽部）が訪れ、札幌のアマチュアの強豪チーム、全札幌鉄道管理局札幌倶楽部との試合を披露。伝説の怪腕沢村栄治や、ロシア出身で旭川育ちの三百勝投手ビクトル・スタルヒンらがその雄姿を現し、ファンを大いに沸かせました。

昭和一七年には円山球場で初めてのプロ野球公式戦、巨人・大洋戦が行われ、以来、平成十二年まで

五十年以上にわたって、球史に残る数々の名勝負が繰り広げられました。

地元には球団を持たない道民にとって、円山球場でのプロ野球観戦は、夏の一大イベントでもあり、毎回大変な盛り上がりを見せたものです。

さらに、中島球場が閉鎖された昭和五十五年前後



昭和38年7月6日に行われた巨人・国鉄戦の様子  
(札幌市写真ライブラリー所蔵)

からは、社会人野球や高校野球にも使用されるようになりました。

特に、夏の甲子園を目指す全国高校野球南北北海道大会が行われようになってからは、「北の甲子園」として球児たちの青春の舞台となりました。勝利の喜びに加えて、かつてあの長嶋茂雄ながしましげおや王貞治おうえいはるが立った



円山球場（昭和52年撮影）  
（札幌市写真ライブラリー所蔵）

打席を踏みしめることができるという、ほかの球場では得られない体験に感激する選手も多かったようです。

そして、時代は移り変わり、平成十二年七月三十日の日本ハム・ロッテ戦を最後に、札幌開催のプロ野球公式戦は札幌ドームへと舞台を移すこととなりました。この日は両チームの応援団に加えて、巨人や阪神など、ほかのチームの応援団も球場に詰め掛け、長らく親しんだ球場に最後の声援を送りました。円山球場は今後もアマチュア野球の拠点として、また、夏の青空と芝生の緑、周囲に広がる原生林など、自然に囲まれた北海道を代表する球場として、市民に親しまれていくことでしょう。

（平成十四年八月号・第八十四回）